

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人体の構造		救急救命学科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川岸 久太郎 実務経験(病院業務従事)
授業の概要				
医学の基本である人体の構造を理解する。				
授業終了時の到達目標				
人体の構造を理解することにより医学的根拠に結び付けられるよう解剖学の基礎を習得する。重要事項や解剖用語を説明し、模式図を板書し、写真や図・表などパワーポイントなどを使用し、理解へと務める。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス(授業の進め方)『人体を構成する要素』			
2	『人体の作りとその役割』	細胞・組織・臓器		
3	『体液』	体液の組成・細胞外液・細胞内液		
4	『体液』	電解質・酸塩基平衡・浸透圧・電解質と体液調整のメカニズム		
5	『人体の位置・方向・運動に関する用語』	軸と面・帯・点と線・間接運動の方向		
6	『体表からみた構造と名称』	体表の観察・頭部(顔部)の構造・頸部の構造		
7	『体表からみた構造と名称』	胸部の構造・腹部の構造・会陰部の構造		
8	『体表からみた構造と名称』	循環器・消化器の構造		
9	『体表からみた構造と名称』	上肢の構造・下肢の構造		
10	『体表から見える解剖学的指標』	骨学		
11	『身体各部位の役割』	頭部(顔部)の役割・胸部の役割		
12	『身体各部位の役割』	腹部の役割・四肢骨盤の役割		
13	『体腔内臓器の体表からの位置関係』	頭蓋腔		
14	『体腔内臓器の体表からの位置関係』	胸腔・腹腔		
15	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 「からだが見える 人体の構造と機能」 ※メディックメディア その他必要に応じ資料を配付する。		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人体の機能		救急救命学科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川岸 久太郎 実務経験(病院業務従事)
授業の概要				
人体の構造を基に細胞や各臓器がどのように働き、どのように機能するかを基礎から学び、医学的に理解することにより疾患に結びつけられるように解剖学における機能の基礎を習得する。				
授業終了時の到達目標				
重要事項や解剖用語を説明し、模式図を板書し、写真や図・表などパワーポイントなどを使用し、理解へと務める。				
回	テーマ	内 容		
1	『ガイダンス』講義の進め方等『神経系』	神経系の構成と役割		
2	『神経系』	中枢神経系・末梢神経系		
3	『神経系』	伝導路・自律神経系		
4	『神経系』	脳循環・意識・反射		
5	『感覚系』	感覚系の構成と役割・視覚・平衡感覚・聴覚器		
6	『感覚系』	臭覚器・味覚器・皮膚感覚器		
7	『呼吸系』	呼吸系の構成と役割		
8	『呼吸系』	呼吸・気道		
9	『呼吸系』	胸郭・肺・肺でのガス交換		
10	『呼吸系』	体内での酸素の動き・呼吸の調節		
11	『循環系』	循環系の構成と役割		
12	『循環系』	心臓		
13	『循環系』	脈管		
14	『循環系』	循環の制御		
15	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 「からだが見える 人体の構造と機能」 ※メディックメディア その他必要に応じ資料を配付する。		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
疾病の科学		救急救命学科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木内 賢一 実務経験(消防業務従事)
授業の概要				
救急医療のなかで、生命の誕生から死までの生い立ちや体内の科学を学び、生きるために必要なエネルギーや細胞の働き、変異や腫瘍、死体現象といった生体科学を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
解剖学を通じて、疾患の成り立ちから死までの生体に関わる変化を学ばせ、救急医療や社会的に必要な疾患の基礎を習得させる。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス(講義の進め方等)『炎症と感染』	炎症		
2	『炎症と感染』	感染症		
3	『循環障害』	虚血・うっ血・出血		
4	『循環障害』	血栓と塞栓・梗塞・浮腫		
5	『代謝障害』	糖質の代謝異常・脂質の代謝異常・蛋白質の代謝異常・内分泌異常		
6	『代謝障害』	ビタミンの代謝異常・体液と電解質異常・酸塩基平衡異常		
7	『退行性病変と進行性病変』	退行性病変		
8	『退行性病変と進行性病変』	進行性病変		
9	『腫瘍』	良性腫瘍・悪性腫瘍		
10	『先天異常』	内因性先天異常		
11	『先天異常』	外因性先天異常		
12	『損傷』	損傷・創傷治癒		
13	『死』	死の概念・死体現象		
14	『死』	死にかかわる手続きと検査・死体の尊厳		
15	『定期試験』	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※ヘルス出版 その他必要に応じ資料を配付		期末試験 授業態度 出席率	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
薬の科学		救急救命学科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	玉城 和子 実務経験(病院業務従事)
授業の概要				
救急救命士テキストを用いて、救急救命士が使用できる薬剤について、また薬剤の				
授業終了時の到達目標				
救急救命士が現場活動において薬剤投与の処置を実施する事があることから、薬理学の基礎及び救急救命士が使用する薬剤について学ぶことにより、救急救命士に必要な薬理についての知識を深めるとともに薬がどのように効き、疾病から回復(治療)するのかを学ぶ。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス(講義の進め方等)『医薬品の基礎』	薬物総論: 医薬品とは		
2	『医薬品の基礎』	薬物総論: 薬物の体内動態		
3	『医薬品の基礎』	薬物総論: 薬物の投与経路		
4	『医薬品の基礎』	薬物の副作用: 有害作用・薬物中毒・薬物アレルギー		
5	『重要な医薬品』	救急救命処置に用いられる薬剤: アドレナリン		
6	『重要な医薬品』	救急救命処置に用いられる薬剤: 乳酸リンゲル液		
7	『重要な医薬品』	救急救命処置に用いられる薬剤: ブドウ糖		
8	『重要な医薬品』	注意を要する常用薬: 経口糖尿病薬・インスリン・亜硝酸薬・降圧薬・気管支拡張薬・利尿薬・向精神薬・抗凝固薬・抗血小板薬		
9	『重要な医薬品』	注意を要する常用薬: 勃起機能不全薬・抗てんかん薬・ステロイド・感冒薬・鎮痛薬・睡眠薬・抗菌薬・抗ウイルス薬		
10	『重要な医薬品』	重要な静脈内投与: 輸液製剤・昇圧薬		
11	『重要な医薬品』	重要な静脈内投与: 血液製剤		
12	『検査』	検査の種類: 検体検査・生理学的検査・画像検査		
13	『検査』	緊急検査: 末梢血液検査・動脈血ガス分析・尿検査・心電図検査・単純X線検査		
14	『検査』	緊急検査: CT検査・超音波検査・MRI(核磁気共鳴)検査・血管造影検査・内視鏡検査・脳脊髄液検査		
15	『定期試験』	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 自主編成教材		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生概論		救急救命学科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木内 賢一 実務経験(消防業務従事)
授業の概要				
救急救命士(医療人)として時代の流れとともに変化してきた疾病構造や、その要因のひとつである環境について理解する。				
授業終了時の到達目標				
子どもから高齢者までの健康問題、社会保障や社会福祉についての公衆衛生学を習得する。併せて、健康の定義、医療費や社会保障の内容、医療関連法規について医学の基本である「公衆衛生学」を基礎から学び医療人としての動態を習得させる。				
回	テーマ	内容		
1	『ガイドンス』講義の進め方・『保健医療制度の仕組みと現状』	公衆衛生の仕組み		
2	『保健医療制度の仕組みと現状』	医療を取り巻く環境		
3	『保健医療制度の仕組みと現状』	疾病構造の変化		
4	『保健医療制度の仕組みと現状』	医療供給体制		
5	『保健医療制度の仕組みと現状』	在宅医療と地域包括ケア		
6	『保健医療制度の仕組みと現状』	環境保健・労働衛生を支える仕組み		
7	『保健医療制度の仕組みと現状』	学校保健を支える仕組み		
8	『社会保障と社会福祉』	社会保障		
9	『社会保障と社会福祉を支える仕組み』	社会福祉の仕組み		
10	『社会保障と社会福祉』	介護保険制度・年金保険制度		
11	『社会保障と社会福祉』	生活保護・児童福祉		
12	『社会保障と社会福祉』	高齢者福祉		
13	『社会保障と社会福祉』	母子寡婦福祉		
14	『社会保障と社会福祉』	障害者福祉		
15	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※ヘルス出版 ・必要に応じ資料配布		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急医学総論		救急救命学科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木内 賢一 実務経験(消防業務従事)
授業の概要				
講義はテキストに沿って進め、救急医療の背景や歴史を学ぶことで医療を理解し、救急医療の成り立ちを把握する。また、テーマ研究や発表、プレゼンテーションなどを取り入れることにより、自身の資格に対する関係法規や役割、責任について考えさせ学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
救急救命士の業務と使命を十分理解し、救急救命士になるために学ばなければならない救急医学の概要を修得する。救急医療発展の歴史と救急救命士誕生の背景、救急救命士の業務と責任、病院前救護(プレホスピタルケア)におけるメディカルコントロール体制の重要性、救急救命士に求められる倫理などについて学習する。				
回	テーマ	内 容		
1	ガイダンス・『生命倫理と医の倫理』			
2	『救急療体制』	救急医療体制及び救急医療機関が説明できる		
3	『救急療体制』	メディカルコントロールについて説明できる		
4	『災害医療体制』	災害の定義および自然災害、人的災害、特殊災害について説明できる		
5	『災害医療体制』	災害時のゾーニングについて説明できる		
6	『災害医療体制』	トリアージについて説明できる		
7	『消防機関における救急活動の流れ』	活動の流れおよび状況評価、初期評価が説明できる		
8	『救急活動時のコミュニケーション』	言語、非言語コミュニケーションおよび小児、高齢者へのコミュニケーションについて説明できる		
9	『救急救命士に関する法令』	消防法、救急救命士法について説明できる		
10	『救急救命士の養成と生涯教育』	救急救命士の自己研鑽、病院実習について説明できる		
11	『安全管理と事故対応』	リスクマネジメント、インシデント、アクシデントについて説明できる		
12	『感染対策』	標準予防策、感染防止用個人防護具について説明できる		
13	『感染対策』	手指消毒および感染症について説明できる		
14	『ストレスに対するマネジメント』	PTSDおよびデフュージング、デブリーフィングについて説明できる		
15	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料配布		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急処置各論 I		救急救命学科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木内 賢一 実務経験(消防業務従事)

授業の概要

テキストに沿って授業を行い、救急資機材、観察用資機材を使用し互いにし各種処置及び観察を実施することで基本知識及び手技を習熟させる。

授業終了時の到達目標

救急現場で救急隊員、救急救命士が行う傷病者の観察方法について理解する。また、観察内容を通じて基本的な病態を理解することで、観察の必要性や鑑別能力を高める。

回	テーマ	内容
1	『観察総論』	観察の目的と意義・バイタルサイン・観察の方法
2	『観察総論』	観察の目的と意義・バイタルサイン・観察の方法
3	『全身状態の観察』	外見の観察、気道に関する観察
4	『全身状態の観察』	呼吸に関する観察、循環に関する観察
5	『全身状態の観察』	意識状態に関する観察
6	『局所の観察』	観察結果の表現、皮膚
7	『局所の観察』	頭部・顔面・頸部に関する観察
8	『局所の観察』	胸部・背部・腹部に関する観察
9	『局所の観察』	四肢・その他の部位に関する観察
10	『神経所見の観察』	運動機能・感覚に関する観察
11	『神経所見の観察』	髄膜刺激症候・失語症と構音障害に関する観察
12	『神経所見の観察』	脳卒中スケール・神経学的異常に関する観察
13	『緊急度・重症度判断』	緊急度と重症度
14	『緊急度・重症度判断』	判断の基準
15	定期試験	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料配布	期末試験 授業態度 出席率	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急処置各論Ⅱ		救急救命学科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木内 賢一 実務経験(消防業務従事)
授業の概要				
救急救命処置を中心に各論や処置についての医学的根拠、機器取扱いや特定行為の必要性を学、処置についての適応や禁忌が判断できる知識を習得させる。				
授業終了時の到達目標				
実践的な器具の使い方、実技の説明のみならず基礎的な知識の習得を目的に薬理学、生理学的、臨床医学的に説明する。救急救命士が使用する器具、薬剤等についての基礎知識を習得させ、救急救命士が行う特定行為および、心肺蘇生法の医学的基礎知識を習得させる。				
回	テーマ	内容		
1	『資器材による観察』	パルスオキシメーター・カプノメーター・聴診器		
2	『資器材による観察』	血圧計・心電図モニター・体温計・血糖測定器		
3	『救急救命士が行う処置』	処置の目的と意義・気道確保・口腔内の吸引		
4	『救急救命士が行う処置』	声門上気道デバイスを用いた気道確保		
5	『救急救命士が行う処置』	気管挿管		
6	『救急救命士が行う処置』	気管吸引・酸素投与・人工呼吸		
7	『救急救命士が行う処置』	胸骨圧迫・自動式心マッサージ器の使用		
8	『救急救命士が行う処置』	除細動		
9	『救急救命士が行う処置』	静脈路確保と輸液・アドレンリン投与		
10	『救急救命士が行う処置』	自己注射用アドレナリの投与・ブドウ糖の投与		
11	『救急救命士が行う処置』	体位管理・体温管理・止血・創傷処置・固定		
12	『救急蘇生法』	成人小児乳児の救急蘇生法		
13	『在宅療法継続中の傷病者の処置』	在宅療法への対応		
14	『傷病者搬送』	搬送総論・搬送方法・搬送手順・事故車両からの救出等		
15	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版 「救急器材マニュアル」 ※ぱーそん書房 必要に応じ資料配布		期末試験 授業態度 出席率	80.0% 10.0% 10.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急症候学 I		救急救命学科/1年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	木内 賢一 実務経験(消防業務従事)

授業の概要

救急医療の基本となる病態生理学をはじめ、各論を説明する。また、発生機序を含め、解剖学的、生理学的な観点からも病態を理解させる。テキストを基準に講義を進めるが、必要に応じて資料配布やスライド等による講義を行う。

授業終了時の到達目標

救急医療の基本となる病態生理学を理解し、問診、観察の必要性和関連性を把握する。

回	テーマ	内容
1	『意識障害』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等
2	『意識障害』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等
3	『頭痛』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等
4	『頭痛』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等
5	『痙攣』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等
6	『痙攣』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等
7	『運動麻痺』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等
8	『運動麻痺』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等
9	『めまい』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等
10	『めまい』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等
11	『呼吸困難』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等
12	『呼吸困難』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等
13	『喀血』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等
14	『喀血』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等
15	期末試験	期末試験

回	テ ー マ	内 容		
16	『失神』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等		
17	『失神』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等		
18	『胸痛』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等		
19	『胸痛』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等		
20	『動悸』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等		
21	『動悸』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等		
22	『腹痛』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等		
23	『腹痛』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等		
24	『吐血・下血』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等		
25	『吐血・下血』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等		
26	『腰痛・背部痛』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等		
27	『腰痛・背部痛』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等		
28	『体温上昇』	定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等		
29	『体温上昇』	原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等		
30	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料を配付		授業態度	20.0%	
		期末試験	80.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急症候学Ⅱ		救急救命学科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	梅村 武寛 実務経験
授業の概要				
救急医療の中でも重症、緊急性であり、救急救命処置を行わなくてはならない心肺停止からはじまり、その他の随伴症状、自覚的所見だけではなく、他覚的所見から考えられる疾患や病態生理学、各論を学ぶ。 心肺停止をはじめとする、救急医療の最重症となる症状から、心肺停止に至る前の状態や所見を学ぶことにより、心肺停止前に救命することができる。				
授業終了時の到達目標				
適切な観察、判断により適切な医療機関へ搬送するための情報収集を身につける。全30回で急性期障害の病態各論を学ぶ。				
回	テーマ	内容		
1	『神経疾患』	総論・脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等		
2	『神経疾患』	総論・脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等		
3	『呼吸系疾患』	総論・呼吸不全・上気道の疾患・下気道と肺胞の疾患・感染症等		
4	『呼吸系疾患』	総論・呼吸不全・上気道の疾患・下気道と肺胞の疾患・感染症等		
5	『循環系疾患』	総論・動脈硬化・うっ血性心不全・虚血性心疾患・心筋梗塞等		
6	『循環系疾患』	総論・動脈硬化・うっ血性心不全・虚血性心疾患・心筋梗塞等		
7	『消化器系疾患』	総論・歯、口腔疾患・食道疾患。胃十二指腸疾患・腸疾患等		
8	『消化器系疾患』	総論・歯、口腔疾患・食道疾患。胃十二指腸疾患・腸疾患等		
9	『泌尿・生殖系疾患』	総論・腎臓の疾患・尿路の疾患・生殖器の疾患等		
10	『泌尿・生殖系疾患』	総論・腎臓の疾患・尿路の疾患・生殖器の疾患等		
11	『代謝・内分泌・栄養系疾患』	糖尿病等		
12	『代謝・内分泌・栄養系疾患』	糖尿病等		
13	『血液・免疫系疾患』	総論・血液疾患・免疫疾患		
14	『血液・免疫系疾患』	総論・血液疾患・免疫疾患		
15	定期試験	中間試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料を配付		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
疾病救急 I		救急救命学科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木内 賢一 実務経験(消防業務従事)
授業の概要				
基本となる代謝疾患を中心に学ぶ。解剖学的観点あるいは臓器別の観点から、救急現場でよく遭遇する疾患について学び、各部位と関連づけながら疾患を理解する。				
授業終了時の到達目標				
代謝疾患、解剖学的観点から救急現場で遭遇する疾患について理解する。				
回	テーマ	内容		
1	『呼吸不全』	総論、低酸素血症の発症機序		
2	『呼吸不全』	高二酸化炭素血症の発症機序、換気障害の種類		
3	『心不全』	総論、心不全の病態生理		
4	『心不全』	心不全の症候、種類、慢性心不全の急性増悪		
5	『ショック』	総論、循環血液量減少性ショック		
6	『ショック』	心原性ショック、心外閉塞・拘束性ショック、血液分布異常性ショック		
7	『重症脳障害』	総論、発症機序、一次性脳病変と二次性脳病変		
8	『重症脳障害』	頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、特殊な意識障害		
9	『心肺停止』	総論、心肺停止に至る病態と原因		
10	『心肺停止』	心電図分類、心肺蘇生中の循環、心拍再開後の病態		
11	『神経系疾患』	総論、脳血管障害		
12	『神経系疾患』	中枢神経系の感染、末梢神経疾患、その他の中枢神経疾患		
13	『呼吸系疾患』	総論、上気道の疾患、下気道と肺胞の疾患		
14	『呼吸系疾患』	感染症、胸膜炎、その他の呼吸系疾患		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版		授業態度	20.0%	
必要に応じ資料を配付		期末試験	80.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		救急救命学科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	辻野 久美子 実務経験(病院業務従事)
授業の概要				
救急救命士が救急現場において小児を扱うことが多い。医学知識としての小児の疾病全般に関する知識を習得する。小児特有の救急疾患を基礎から学び、成人と小児の相違点や小児にしか見られない疾患等を中心に講義を進めていく。小児の中でも、新生児や乳児といった普段関わることが少ない傷病者へのアプローチ方法やバイタル測定の方法等を学び対応できる能力を養う。小児疾病に関する概論講義を行う。スライドやレジュメ等を使用し進行していく。				
授業終了時の到達目標				
医学知識としての小児の疾病全般に関する知識を習得する。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス(講義の進め方等)	『小児に特有な疾患』		
2	『小児に特有な疾患』	総論:小児の生理学的特徴		
3	『小児に特有な疾患』	成長に伴う形態及び機能の変化		
4	『小児に特有な疾患』	観察と判断		
5	『小児に特有な疾患』	主な疾患:神経系疾患		
6	『小児に特有な疾患』	主な疾患:呼吸系疾患		
7	『小児に特有な疾患』	主な疾患:消化系疾患		
8	『小児に特有な疾患』	主な疾患:感染症		
9	『小児に特有な疾患』	主な疾患:その他の疾患		
10	『妊婦・分娩の救急疾患』	妊娠、分娩について		
11	『妊婦・分娩の救急疾患』	妊娠、分娩かわる疾患について		
12	『妊婦・分娩の救急疾患』	車内分娩について		
13	『新生児の観察と処置』	新生児の観察について		
14	『新生児の観察と処置』	新生児の処置について		
15	定期試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料を配付		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
特殊病態		救急救命学科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	園生 陽子 実務経験(病院業務従事)
授業の概要				
<p>救急救命士が救急現場において特殊事例(分娩)を扱うことから、医学知識としての特殊事例全般に関する知識を習得する。妊娠から流産、分娩、介助、新生児管理といった一連の生命誕生に対する救急救命士が行える処置を学び、希少な出動ではあるこのような状態の傷病者に出会っても、冷静に対応できる知識、技術を身につけ、生命誕生の介助を実施できる人材を育成する。</p> <p>スライド等を使用し、救急救命士標準テキスト改訂第10版を中心に救急救命士が行える分娩介助、新生児管理等について行う。また、婦人科系疾患について習得する。</p>				
授業終了時の到達目標				
冷静に対応できる知識、技術を身につけ、生命誕生の介助を実施できる人材を育成する。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	講義のすすめかた等		
2	『泌尿・生殖系疾患』	『泌尿・生殖系疾患』婦人科		
3	『妊婦・分娩と救急疾患』	正常妊娠(受精と着床・胎児・胎児附属物)		
4	『妊婦・分娩と救急疾患』	正常妊娠(妊娠週数・妊娠による母体の変化)		
5	『妊婦・分娩と救急疾患』	異常妊娠(妊娠初期の異常・妊娠中期の異常)		
6	『妊婦・分娩と救急疾患』	異常妊娠(切迫早産・前期破水・妊娠高血圧症候群・子癇)		
7	『妊婦・分娩と救急疾患』	異常妊娠(HELLP症候群・前置胎盤・常位胎盤早期剥離)		
8	『分娩介助』	正常分娩(分娩第1期・分娩第2期・分娩第3期)		
9	『分娩介助』	異常分娩(早産・前期破水・骨盤位分娩・子宮破裂)		
10	『分娩介助』	異常分娩(子宮内反・羊水塞栓・弛緩出血)		
11	『新生児蘇生』	観察と処置(妊婦の観察と処置)		
12	『新生児蘇生』	観察と処置(妊婦の観察と処置・新生児の観察と処置)		
13	『新生児蘇生』	観察と処置(新生児の観察と処置)		
14	『新生児蘇生』	観察と処置(新生児の観察と処置・医療機関選定)		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料を配付		授業態度	20.0%	
		期末試験	80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急救命実習 I		救急救命学科/1年	2023/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	75回	5単位(225時間)	必須	石塚 健 実務経験(消防業務従事)
授業の概要				
<p>救急救命士として必要な基礎知識、スキルを習得させ、団体行動の基本である規律や報告等の基本動作を身につけさせる。また、事故を防止し、災害時などお互い助け合えるようなチームワークの精神を育てるとともに、医療人である自覚を認識させる成人、小児の心肺蘇生法を基本とする「一次救命処置」を中心に止血や異物除去、三角巾や包帯法といった一般市民が行える処置の基本技術を習得させる。また、規律訓練を行い、集団行動に必要な規律を習得させる。</p> <p>※この科目履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切だと担当教員が判断した場合及び個人装備準備不足の場合、実習に参加できない。</p>				
授業終了時の到達目標				
救急救命士として必要な基礎知識、スキルを習得させ、団体行動の基本である規律や報告等の基本動作を身につけさせる。				
回	テーマ	内容		
1	『オリエンテーション』・『規律訓練』	整列・敬礼・右向け・左向け・回れ右・番号		
2	『オリエンテーション』・『規律訓練』	整列・敬礼・右向け・左向け・回れ右・番号		
3	『胸骨圧迫』	心肺蘇生の基本である胸骨圧迫、強く・早く・絶え間なく		
4	『胸骨圧迫』	心肺蘇生の基本である胸骨圧迫、強く・早く・絶え間なく		
5	『胸骨圧迫』	心肺蘇生の基本である胸骨圧迫、強く・早く・絶え間なく		
6	『胸骨圧迫』	心肺蘇生の基本である胸骨圧迫、強く・早く・絶え間なく		
7	『胸骨圧迫』	心肺蘇生の基本である胸骨圧迫、強く・早く・絶え間なく		
8	『胸骨圧迫』	心肺蘇生の基本である胸骨圧迫、強く・早く・絶え間なく		
9	『AED』	心肺蘇生の基本であるAEDの取り扱い、普遍的4つの手順、安全確認		
10	『AED』	心肺蘇生の基本であるAEDの取り扱い、普遍的4つの手順、安全確認		
11	『AED』	心肺蘇生の基本であるAEDの取り扱い、普遍的4つの手順、安全確認		
12	『AED』	心肺蘇生の基本であるAEDの取り扱い、普遍的4つの手順、安全確認		
13	『初期評価』	意識・気道の開通・呼吸・脈拍の確認		
14	『初期評価』	意識・気道の開通・呼吸・脈拍の確認		
15	『初期評価』	意識・気道の開通・呼吸・脈拍の確認		

回	テ ー マ	内 容
16	『初期評価』	意識・気道の開通・呼吸・脈拍の確認
17	『BLS訓練』	一般市民による一次救命処置を2人で行う
18	『BLS訓練』	一般市民による一次救命処置を2人で行う
19	『BLS訓練』	一般市民による一次救命処置を2人で行う
20	『BLS訓練』	一般市民による一次救命処置を2人で行う
21	『BLS訓練』	一般市民による一次救命処置を2人で行う
22	『BLS訓練』	一般市民による一次救命処置を2人で行う
23	『BLS訓練』	一般市民による一次救命処置を2人で行う
24	『BLS訓練』	一般市民による一次救命処置を2人で行う
25	『三角巾法』	三角巾による圧迫止血方法、頭部保護、腕吊りなど
26	『三角巾法』	三角巾による圧迫止血方法、頭部保護、腕吊りなど
27	『三角巾法』	三角巾による圧迫止血方法、頭部保護、腕吊りなど
28	『三角巾法』	三角巾による圧迫止血方法、頭部保護、腕吊りなど
29	『固定』	副子による固定方法
30	『固定』	副子による固定方法
31	『喉頭展開』	喉頭鏡の取り扱い
32	『喉頭展開』	喉頭鏡の取り扱い
33	『喉頭展開』	喉頭鏡の取り扱い
34	『喉頭展開』	喉頭鏡の取り扱い
35	『異物除去』	指払法、背部叩打法、ハイムリック法など

回	テ ー マ	内 容
36	『異物除去』	指払法、背部叩打法、ハイムリック法など
37	『異物除去』	マギール鉗子を用いての異物除去
38	『異物除去』	マギール鉗子を用いての異物除去
39	『異物除去』	マギール鉗子を用いての異物除去
40	『異物除去』	マギール鉗子を用いての異物除去
41	『異物除去』	マギール鉗子を用いての異物除去
42	『異物除去』	マギール鉗子を用いての異物除去
43	『隊活動（異物除去）』	救急隊として3人での活動
44	『隊活動（異物除去）』	救急隊として3人での活動
45	『隊活動（異物除去）』	救急隊として3人での活動
46	『隊活動（異物除去）』	救急隊として3人での活動
47	『隊活動（異物除去）』	救急隊として3人での活動
48	『隊活動（異物除去）』	救急隊として3人での活動
49	『隊活動（異物除去）』	救急隊として3人での活動
50	『隊活動（異物除去）』	救急隊として3人での活動
51	『搬送訓練』	ストレッチャー、布担架、徒手搬送など
52	『搬送訓練』	ストレッチャー、布担架、徒手搬送など
53	『搬送訓練』	ストレッチャー、布担架、徒手搬送など
54	『搬送訓練』	ストレッチャー、布担架、徒手搬送など
55	『搬送訓練』	ストレッチャー、布担架、徒手搬送など

回	テ ー マ	内 容		
56	『搬送訓練』	ストレッチャー、布担架、徒手搬送など		
57	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
58	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
59	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
60	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
61	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
62	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
63	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
64	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
65	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
66	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
67	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
68	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
69	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
70	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
71	『隊活動（心肺停止・異物除去など）』	救急隊として3人で活動。前期の総括		
72	定期試験	期末試験		
73	定期試験	期末試験		
74	定期試験	期末試験		
75	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急救命実習Ⅱ		救急救命学科/1年	2023/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	75回	5単位(225時間)	必須	石塚 健 実務経験(消防業務従事)
授業の概要				
<p>観察の基本、傷病者対応等を学び、前期から引き続いた隊活動を主に実施し、心肺停止傷病者、外傷傷病者における救急隊活動を重点に行う。 ※この科目履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切だと担当教員が判断した場合及び個人装備準備不足の場合、実習に参加できない。</p>				
授業終了時の到達目標				
応急処置の理論と基本的実技の実習を通じて理解させる。				
回	テーマ	内容		
1	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
2	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
3	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
4	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
5	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
6	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
7	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
8	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
9	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
10	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
11	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
12	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
13	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
14	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		
15	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応		

回	テーマ	内容
16	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
17	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
18	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
19	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
20	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
21	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
22	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
23	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
24	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
25	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
26	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
27	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
28	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
29	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
30	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
31	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
32	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
33	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
34	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
35	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応

回	テーマ	内容
36	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
37	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
38	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
39	『大規模災害対応訓練』	MCLSに基づいた大規模災害対応
40	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
41	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
42	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
43	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
44	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
45	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
46	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
47	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
48	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
49	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
50	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
51	『外傷活動』	状況評価・初期評価・全身観察・車内活動・緊急処置
52	『外傷活動』	JPTECに準拠した事故車両よりの救出訓練
53	『外傷活動』	JPTECに準拠した事故車両よりの救出訓練
54	『外傷活動』	JPTECに準拠した事故車両よりの救出訓練
55	『外傷活動』	JPTECに準拠した事故車両よりの救出訓練

回	テ ー マ	内 容		
56	『外傷活動』	JPTECに準拠した事故車両よりの救出訓練		
57	『外傷活動』	JPTECに準拠した事故車両よりの救出訓練		
58	『外傷活動』	JPTECに準拠した事故車両よりの救出訓練		
59	『外傷活動』	JPTECに準拠した事故車両よりの救出訓練		
60	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
61	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
62	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
63	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
64	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
65	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
66	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
67	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
68	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
69	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
70	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
71	『外傷活動』	JPTECに準拠した外傷対応訓練		
72	定期試験	期末試験		
73	定期試験	期末試験		
74	定期試験	期末試験		
75	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 「JPTECガイドブック」 ※へるす出版 「救急資器材マニュアル」 ※ぱーそん書房 「JPTECガイドブック」 必要に応じて資料を配布する。				

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
救急症候学Ⅲ		救急救命学科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	石塚 健 実務経験(消防業務従事)
授業の概要				
救急医療の中の救急隊員、救急救命士の役割について詳説し、救急救命士を目指す自覚を持たせる。外傷病院前救護ガイドラインを詳説する。外傷各論について概説する。テキストを基準に講義を進めるが、必要に応じて資料配布や映像教材による講義を行う外傷の基礎知識の習得に努める。また、実際の症例や写真などの資料を元に実際の救急傷病者のイメージを持つとともに、処置内容等についても学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
救急医療の中の救急隊員、救急救命士の役割について習熟する。				
回	テーマ	内容		
1	『外傷総論』	外傷の疫学・受傷機転とエネルギー・外傷の分類等		
2	『外傷総論』	外傷の疫学・受傷機転とエネルギー・外傷の分類等		
3	『外傷の病態生理』	侵襲への反応・外傷に伴うショック等		
4	『外傷の病態生理』	侵襲への反応・外傷に伴うショック等		
5	『外傷の現場活動』	状況評価・傷病者の評価		
6	『外傷の現場活動』	状況評価・傷病者の評価		
7	『頭部外傷』	特徴・主な外傷・続発症、後遺症・現場活動		
8	『頭部外傷』	特徴・主な外傷・続発症、後遺症・現場活動		
9	『顔面・頸部外傷』	特徴・主な外傷・現場活動		
10	『顔面・頸部外傷』	特徴・主な外傷・現場活動		
11	『脊椎・脊髄外傷』	特徴・主な外傷・現場活動		
12	『脊椎・脊髄外傷』	特徴・主な外傷・現場活動		
13	『胸部外傷』	特徴・主な外傷・現場活動		
14	『胸部外傷』	特徴・主な外傷・現場活動		
15	定期試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版 必要に応じ資料を配付		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
疾病救急Ⅱ		救急救命学科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	梅村 武寛 実務経験(病院業務従事)
授業の概要				
基本となる代謝疾患を中心に学ぶ。解剖学的観点あるいは臓器別の観点から、救急現場でよく遭遇する疾患について学び、各部位と関連づけながら疾患を理解する。				
授業終了時の到達目標				
代謝疾患、解剖学的観点から救急現場で遭遇する疾患について理解する。				
回	テーマ	内容		
1	『循環系疾患』	総論、動脈硬化、虚血性心疾患、心筋梗塞、心膜疾患		
2	『循環系疾患』	不整脈、心電図の観察、その他の心疾患、血管疾患、高血圧		
3	『消化系疾患』	総論、歯・口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患		
4	『消化系疾患』	腸疾患、急性腹膜炎、肝臓・胆道・膵臓の疾患		
5	『泌尿・生殖系疾患』	総論、腎臓の疾患、尿路の疾患、女性・男性生殖器の疾患		
6	『代謝・内分泌・栄養系疾患』	総論、糖尿病とその合併症		
7	『代謝・内分泌・栄養系疾患』	その他の代謝異常、内分泌疾患、栄養疾患		
8	『血液・免疫系疾患』	総論、血液系疾患、免疫疾患、アナフィラキシー		
9	『筋・骨格系疾患』	総論、脊椎疾患、関節疾患		
10	『皮膚系疾患』	総論、皮膚・軟部組織の感染症、アレルギー性疾患、その他の皮膚疾患		
11	『眼・耳・鼻の疾患』	総論、眼の疾患、耳の疾患、鼻の疾患		
12	『感染症』	総論、敗血症、結核、インフルエンザ、食中毒、輸入感染症		
13	『感染症』	発疹性感染症、性感染症、皮膚・軟部組織の感染症、その他の感染症		
14	『高齢者に特有な疾患』	総論、主な疾患		
15	『定期試験』	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「救急救命士標準テキスト改訂第10版」 ※へるす出版		期末試験	100.0%	
必要に応じ資料を配付				